

中国の人民元切り下げについて

2015年8月12日

中国人民銀行は8月11日、人民元の対米ドル中間レートを前日比約1.9%安い1ドル＝6.2298元と発表しました。中国の人民元の基準値算出方法の変更に伴うもので、具体的には市場の需給や主要通貨の変化など為替市場の実勢を総合的に考慮すべく、前日の終値をより重視した中間レートを決定するとされていますが、実質的には人民元の切り下げに踏み出したとみられ、突然の発表は金融市場にとっても予想外の動きとなりました。(算出方法の変更により、本日8月12日の基準値は前日の上海外国為替市場の終値に近い(前日基準値より約1.6%安い)1ドル＝6.3306元と発表されています。)

《人民元切り下げ決定に至った経緯について》

中国は管理変動相場制のもと過去10年にわたり元高政策がとられてきており、元は対ドルで30%以上も上昇しました。2014年以降は1ドル＝6.2元の水準で横ばいとなっていますが、元の実質実効レート的大幅上昇により、中国の国際競争力への影響が懸念されています。

先週発表された7月の輸出は前年同月比▲8.3%と大幅に減少しました。景気の先行きに懸念がもたれるなか、経済成長率7%という政策目標の達成に向け、輸出のテコ入れが大きな政策課題となっています。

《今後の見通しについて》

今回の人民元安は小幅であるものの、今後更なる元安誘導の有無など、中国がどのようなスタンスで為替政策を進めてくるのか、見極めが必要です。

中国が人民元の切り下げ政策まで発動したとすれば、市場では中国景気の厳しい現状を懸念する動きにつながりやすいものの、一方では政府が景気対策をより積極化させることで、景気の底入れにも期待できるといった一面もあります。今回の措置を受けて、中国の輸出が実際に回復に向かうかなどにも注目していく必要があります。

(ご参考) 現行の通貨制度(対米ドル中間レートの一定のレンジ内に1日の為替レートの変動を収める制度、現在±2%)に対し、中国人民銀行は昨日の声明で、「基準値の設定に際して前日終値を参照する方式に移行、昨日の大幅な動きは一度限り」と述べています。

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

《人民元の対ドルレートの推移》



《人民元の対円レートの推移》



《上海総合指数の推移》



出所: Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成。上記指数に関する知的財産権その他一切の権利は指数の発表元に帰属します。